



左から岡本執行委員、川田執行委員長

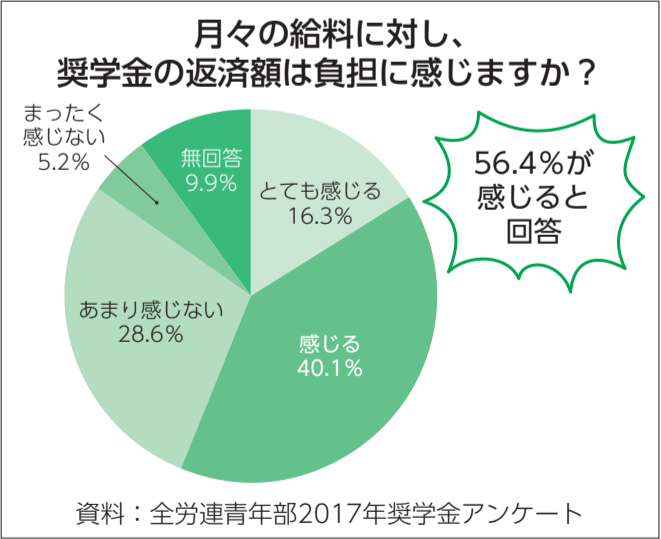
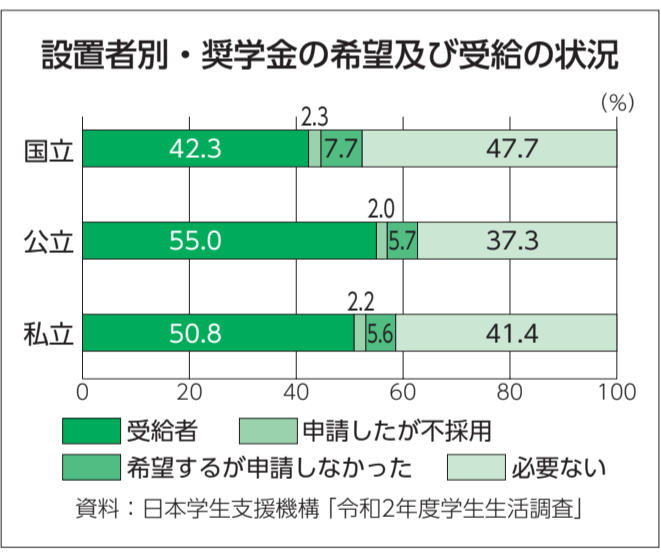
JMITU 日本ロール製造支部



2022春闘統一行動でのJMITUのリレーストライキ(日本ロール前)

青年の声がみんなの統一要求に

奨学金支援制度で青年層の負担減を



大学進学のために奨学金を利用する学生は約5割に達する。低賃金で不安定な雇用が広がり、卒業後の返済に感じる青年も多くいる。いまJMITUや全印総連などの職場で奨学金返還支援制度を要求して実現していることに注目が集まっている。制度を実現させ、その支援対象を拡大させて要求を前進させているJMITUは日本ロール製造支部に取材した。

川田泰志委員長はJMITUの他の支部で奨学金返済に苦しんでいる青年の話聞いて、自身の青年時代の苦労が重なったと語る。その時はそういう支援制度があったらいいなと思ったが、会社に要求できることだとは思っていなかった。しばらくしてJMITUの19秋闘の統一要求書で目にし、「おっ、これ要求するのかが躊躇しながらも支部要求として実現できないか討議を開始した。支部で誰が対象になるのかという

社内で広げた。あつたらいいよねの世論を。社内アンケートの回答には要求闘争しかないという回答を受け入れた。最初の回答は第一種だけ。会社のなかでも適用される人さえない人がいることは仕方ないと思っていた。第2種(有利子)への拡大を実現できると考えていなかった」と若手執行委員の岡本祐太郎さんは話

社内で広げた。あつたらいいよねの世論を。社内アンケートの回答には要求闘争しかないという回答を受け入れた。最初の回答は第一種だけ。会社のなかでも適用される人さえない人がいることは仕方ないと思っていた。第2種(有利子)への拡大を実現できると考えていなかった」と若手執行委員の岡本祐太郎さんは話

岡本さんは、「他の支部の若い仲間の声が産別の統一要求になったからこそ、自分たちも実現できた。産別団交は心強く、産別統一闘争の力を感した」と話す。

当事者と一緒に制度拡充要求を。東京都足立区では全額給付型奨学金を今年度から実施を決めるなど、自治体独自に奨学金を充実させる一方、依然として貸与型が主流だ。職場での支援制度要求や、地方労連や地域労連でも自治体へ給付型奨学金の制度拡充要求することが求められている。

会社に要求できることだと思っていなかった。川田泰志委員長はJMITUの他の支部で奨学金返済に苦しんでいる青年の話聞いて、自身の青年時代の苦労が重なったと語る。その時はそういう支援制度があったらいいなと思ったが、会社に要求できることだとは思っていなかった。しばらくしてJMITUの19秋闘の統一要求書で目にし、「おっ、これ要求するのかが躊躇しながらも支部要求として実現できないか討議を開始した。支部で誰が対象になるのかという

社内で広げた。あつたらいいよねの世論を。社内アンケートの回答には要求闘争しかないという回答を受け入れた。最初の回答は第一種だけ。会社のなかでも適用される人さえない人がいることは仕方ないと思っていた。第2種(有利子)への拡大を実現できると考えていなかった」と若手執行委員の岡本祐太郎さんは話

岡本さんは、「他の支部の若い仲間の声が産別の統一要求になったからこそ、自分たちも実現できた。産別団交は心強く、産別統一闘争の力を感した」と話す。

岡本さんは、「他の支部の若い仲間の声が産別の統一要求になったからこそ、自分たちも実現できた。産別団交は心強く、産別統一闘争の力を感した」と話す。

岡本さんは、「他の支部の若い仲間の声が産別の統一要求になったからこそ、自分たちも実現できた。産別団交は心強く、産別統一闘争の力を感した」と話す。